

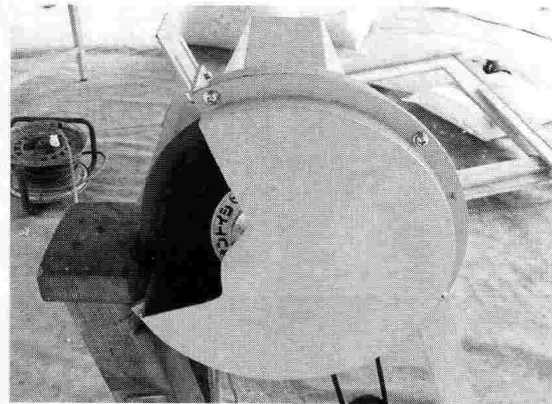


山主が主役で間伐材の地産地消
移動式製材機の開発で間伐が進む

高知県安芸林業事務所
間伐推進チーム
林業普及指導員 福留将史



ホッキー間伐材加工研究クラブが作った製材機。材を挽いているのは、同クラブ会長・長谷田隆敏さん(左)、代表・山崎周作さん(右)



丸鋸の目立て用グラインダ

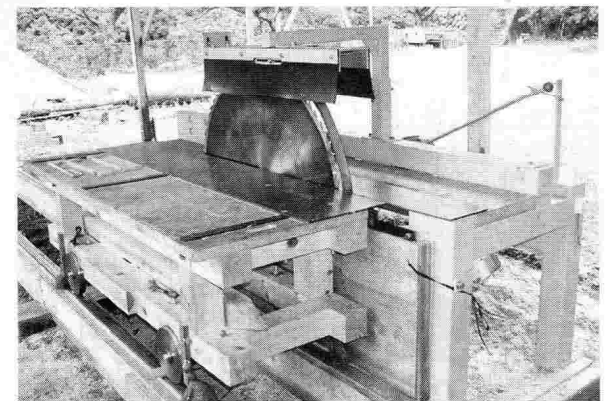
全国どこにもあった製材機ではないかと思えます。ただ、うまく製材することができずに、徐々に消えていきました。それを独自技術で開発したのが、山中宏男さんの

高知県香美郡土佐山田町平山地区は、県内でも早くから植林が行われた地域で、スギ・ヒノキの間伐が大きな問題となっていました。平成10年9月、激甚災害の指定を受けた高知豪雨があり、地域の森林は大打撃を受け、地元住民は山に関心を向けるようになりました。「間伐補助金をもらうには、山の木を10本の内3本伐らんといかん山に捨てるのはもったいない。自分が製材できたり、地域で使えるのであれば間伐をする」という声が上がりました。木材は、山から消費者に渡るまで、何回も運賃、手数料がかかり、試算すると1本3000円の木が最終的に6万8000円になります。そこで、山元で製材して2次製品にすることで、この問題を解決しようと考えました。ところが、構造が簡単でしかも安くメンテナンスが簡単という製材機は見あたりませんでした。地元の有志とともに、自ら植栽から製材までを手掛ける筒井順一郎さんを土佐町に訪ね、製材機を見せてもらい仕組みを学びました。筒井さんには、山中宏男さんという先生がいることがわかり、製材機を作ってもらおうと依頼しました。

「石原式改良型製材機」です。特徴は、①軽トラックで運搬が可能。組み立ても2人で半日〜1日で完了。②メンテナンスが簡単。③住宅部材はなんでも挽ける(原木最長6m、直径40cmまで切削可能)。④1日の切削能力は3m³、製品歩留まり85%以上(素人でも2〜3カ月で50〜60%程度まで加工できるようになる)。

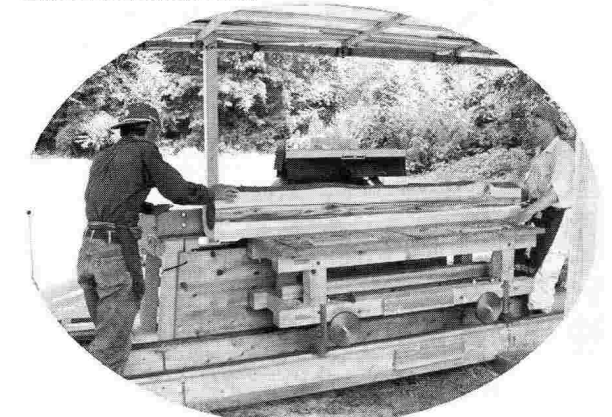
県内外から注文が届き、森林組合や個人が購入して製材を行っています。

株式会社 高知県国市中央
3000番地
TEL 0000-0000-0000
FAX 0000-0000-0000
http://masusabikyosyo.ne.jp



市販された移動式製材機

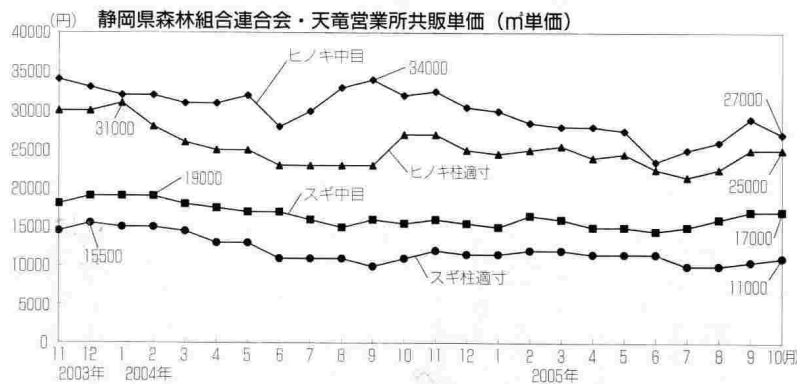
その後、ホッキー間伐材加工研究クラブを結成し、15名が資金を出し合い製材機は完成しました。ホッキー間伐材加工研究クラブではこれまで、小学校での木工キットの制作、地域の住宅や高知市の寺の修理材料など、多岐にわたりに受注し、製材機を稼働しています。このため平山では、道端での間伐など、利用間伐が増えていきます。また、今年4月には土佐山田町が旧保育所を利用して地元産品を販売している「あったかいWa平山ふれあい館」の敷地に、間伐材活用の拠点として「平山木工



最長で長さ6m、直径40cmまでの原木を製材可能

木材市況

天竜営業所(浜北市)は、静岡県森林組合連合会の木材市場の一つ。グラフの10月の数値は、10月12日の「木の日記念市」の中値。出品量1304m³、落札率94%。「雨にたたられ、記念市としては出品量が少なめ。ヒノキ中目材や柱材は、一時の元気がなくなり心配の種。一方、スギについてはほぼ完売で元気がある」と小田岩保所長。優良材も多く出品され、地元天竜産ヒノキ6m材(径48cm)に55万5千円/m³の値が。「125年生で質・形が素晴らしかった。他に30〜40万円クラスもかなり出た」。



ヒノキ中目材(長さ4m、末口20~28cm)、ヒノキ柱適寸(3m、16~18cm)、スギ中目材(4m、20~28cm)、スギ柱適寸(3m、14~18cm)
市日は毎週水曜日で、グラフのデータは原則的に毎月2回目の市のもの

所」を建設。地域振興の中核施設となっています。

◆ 平成15年6月、ホッキー間伐材加工研究クラブの移動式製材機のお披露目を行いました。地元新聞やテレビに報道されたことをきっかけに、南国市の益製作所から市販型の移動式製材機MIS-8000型(石原式改良型)が製造・販売されることになりました。本機は、労働安全衛生法にも合格し、(社)高知県工業会の高知県工業会推奨商品第1号に選ばれました。移動式製材機は昭和のはじめには、